

2. 西川津遺跡より出土した縄文早期末～ 前期初頭銚型木製品の樹種について

渡辺正巳*

はじめに

西川津遺跡出土木製遺物の樹種鑑定を行った。現在、弥生時代の木製品を中心におよそ100点の樹種鑑定を行っているが、今回は縄文早期～前期初頭の銚型木製品についての報告をする。

方 法

遺物にできるかぎり損傷を与えず樹種鑑定を行うために、破切面や目だたない所から、小口・柾目・板目面の切片を作り、カナダバルサムで封入し永久プレパラートを作成した。このプレパラートを顕微鏡下で観察し内部形態的特徴から樹種の同定を行った。

内部形態的特徴（用語は島地ほか（1985）に準じた）

木口（図版135—1）

仮道管……早材から晩材への移行はおだやか。

樹脂細胞（軸方向柔細胞）……主に晩材部に分布。接線方向に配列。

板目（図版135—2）

樹脂細胞（軸方向柔細胞）……隔壁は数珠状末端壁（図版では不明瞭）。

放射組織（放射柔細胞）……単列。1～6細胞高。円形～楕円形の細胞。

柾目（図版135—3、4）

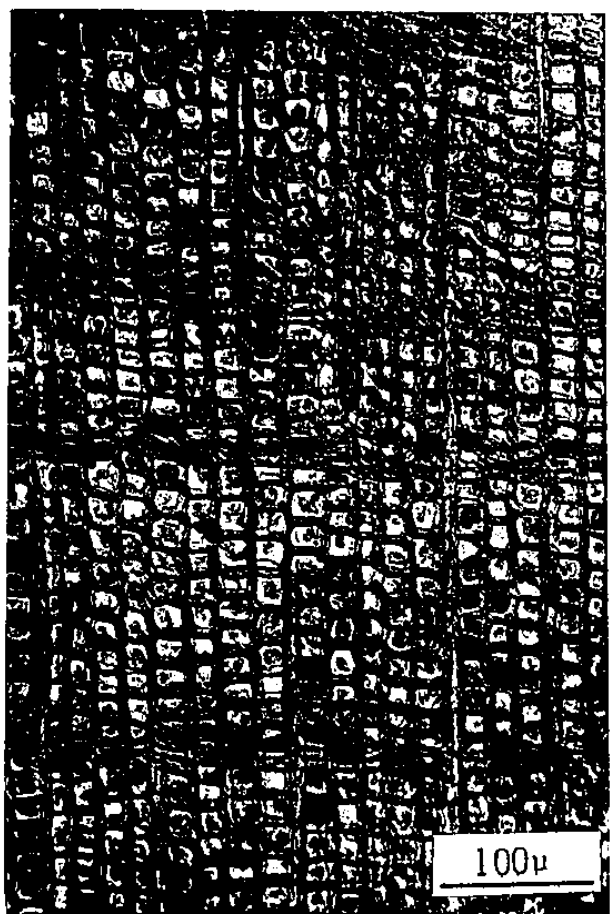
放射組織（放射柔細胞）……分野壁孔はヒノキ型で2～4個。早材部は水平膜は仮道管の垂直膜よりやや薄い。

以上の内部形態的特徴からヒノキ属ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa*) と種を同定した。しかし、同属のサワラ (*Chamaecyparis pisifera*) の可能性も若干残る。

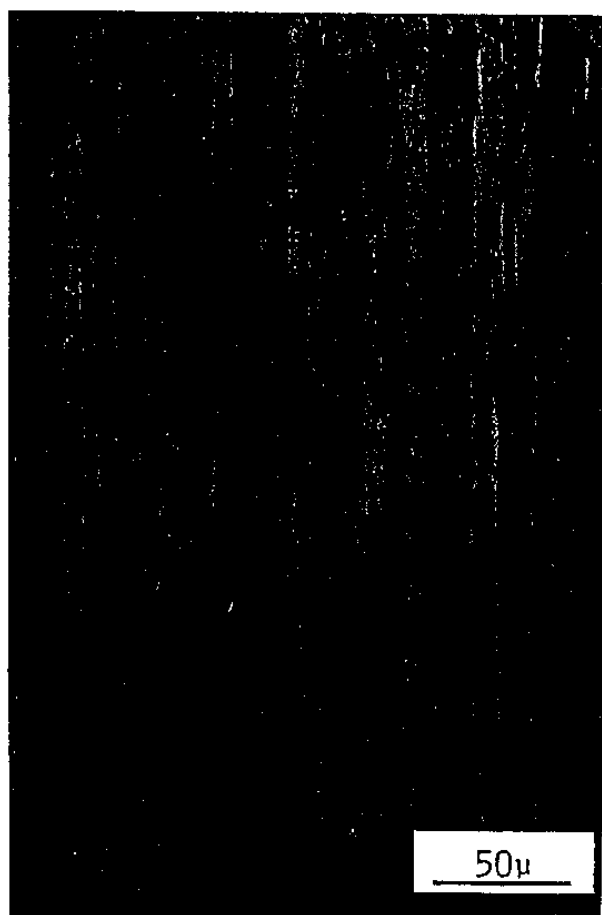
謝辞

樹種の同定にあたり、天理大学付属参考館金原正明氏には多数の御助言をいただいた。

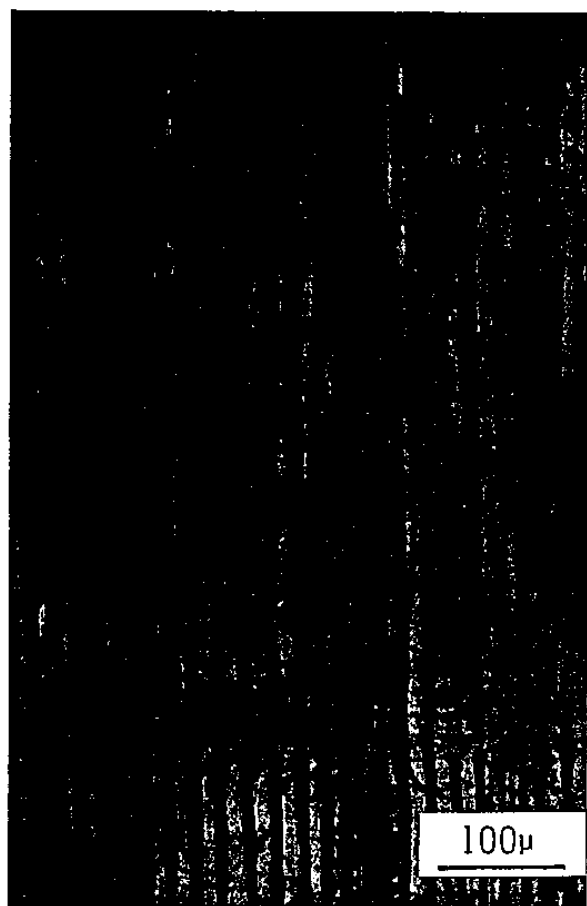
* Masami WATANABE 島根大学理学部地質学教室



1: 木口



2: 板目



3: 板目



4: 板目

ここに感謝の意を表したい。

参考文献

小林彌一（1957）本邦における針葉樹材のカード式識別法。林業試験場研究報告、98、1—84。

島地 謙（1964）木材解剖図説、地球社、114。東京

島地 謙・佐伯 広・原田 広・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司（1985）木材の構造、文永堂、276。東京